

埼玉親善大使レポート

英国のボーディングスクールで過ごした一年

氏名：A・M

活動場所：イギリス

イギリス・Reading について

私は 2025 年 8 月から 2026 年 7 月までの約 1 年間、英国イングランドにあるボーディングスクール、Queen Anne's School (QAS) に留学しました。授業だけでなく、食事や放課後、週末の活動まで友人たちと一緒に過ごすため、学校そのものが生活の場でもありました。学校のある Reading はロンドンから鉄道で 40 分ほどの街で、東京から見たさいたま市のように、都市へのアクセスがよく便利な場所です。毎年夏には大規模な野外音楽フェスティバル「Reading Festival」が開催されることでも知られています。

留学に当たっては、日本の学校での選考に加え、現地校による選考もありました。英語と数学の試験を受け、さらにオンラインで校長先生との面談を経て入学が決まりました。私は日本では高校 1 年生でしたが、QAS では一つ上の学年に当たる Year 12 に入り、英国の大学進学資格である A-Level (Advanced Level) の 1 年目を学びました。

A-Level の授業

A-Level では、生徒が自分の進路や興味に応じて科目を絞り、専門的に学んでいきます。私は数学に加えて、日本の高校ではなかなか授業として学ぶ機会のない Psychology (心理学) と Business Studies (ビジネス) を選択しました。心理学では人の記憶や行動などについて、ビジネスでは企業経営やマーケティングなどについて学びました。

授業では先生と生徒との距離が近く、質問や意見を伝えることが歓迎されていると感じました。数学で英語の専門用語の理解に苦労した時にも、先生が「どうすれば自分のペースで学習を進められるか」を一緒に考えてくださいました。この経験から、すべてを一人で完璧にこなすことだけが自立なのではなく、必要な時には助けを求めながら、自分に合った方法で前に進むことも大切だと気付きました。

パストラル・ケアについて

英国の学校生活で特に実感したのが「パストラル・ケア」です。これは、生徒の学習面だけでなく、心身の健康や生活面も含めて学校全体で支え、安心して成長できる環境をつくる仕組みです。

私は留学前からこの仕組みに関心を持っていましたが、実際にホームシックになったり体調を崩したりした際には、寮母さんや養護の先生がすぐに声を掛け、話を聞いたり、休める環境を整えたりしてくださいました。「一人で抱え込まなくてもよい」と思えることは、家族と離れて外国で暮らす私にとって大きな安心でした。制度として知るだけでなく、自分自身が支えてもらう経験を通して、パストラル・ケアの大切さを実感することができました。

埼玉親善大使として伝えた埼玉と日本

「埼玉発世界行き」奨学生として、私は留学中、埼玉親善大使として埼玉県や日本の魅力を伝えることも大切にしました。寮の友人たちには、埼玉から持っていった狭山茶や秩父のお菓子「ちちぶまゆ」を紹介し、一緒に味わいました。「これはどんなお菓子なの？」「埼玉は東京から近いの？」などと質問してもらい、お茶の時間をきっかけに埼玉について話すことができました。また、写真や資料を使って、埼玉県の場所や特徴、文化などについて紹介するプレゼンテーションも行いました。

さらに、寮では友人たちと一緒にお寿司作りにも挑戦しました。海外でも寿司はよく知られていますが、実際に一緒に具材を選び、巻いて、食べることで、日本の食文化をより身近に感じてもらえたと思います。学校の日本語クラブのお手伝いをする機会もあり、日本語に興味を持つ生徒たちとの交流を楽しみました。

実際に海外で暮らしてみても感じたのは、日本や埼玉について知ってもらうためには、一方的に説明するだけでなく、一緒に食べる、一緒に作る、質問に答えるといった日常の小さな交流がとても大切だということです。自分にとって身近だった埼玉について海外の友人に説明することで、私自身も改めて埼玉の文化や魅力に目を向けるようになりました。

英国ならではの学校生活と文化

放課後にはさまざまな課外活動が用意されており、私も多い時には一週間に七つほどの活動に参加しました。その中でも特に思い出深いのが聖歌隊です。ロンドンのウェストミンスター寺院で行われた礼拝では、学校の伝統的な赤いローブを着て歌いました。英国王の戴冠式も行われてきた歴史ある場所に自分が立ち、仲間と歌った経験は、英国に留学したからこそできた忘れられない思い出です。

さらに、友人に自分から声を掛けてバンドを組み、学校の音楽イベントで何度も演奏しました。最初の頃は、英語で話しかけることだけでなく、すでにできている友人のグループに自分から入っていくことにも勇気が必要でした。しかし、思い切って声を掛けてみると、新しい友人や活動が少しずつ広がっていきました。

1年間の留学を終えて

1年間の留学では、英語や授業での学びだけでなく、寮生活、友人との交流、音楽活動、日本や埼玉の紹介など、本当に多くの経験をすることができました。楽しいことばかりではなく、ホームシックになったり、勉強や人間関係に悩んだりすることもありました。しかし、周囲の人に支えてもらいながら、自分から一歩踏み出すことで、新しい世界が広がっていくことを知りました。

埼玉から英国へ行き、現地の人たちに埼玉や日本を紹介する一方で、私自身も英国の文化や人々からたくさんのことを教えてもらいました。この1年間でできた人と人とのつながりこそが、埼玉親善大使として得た一番大きな財産だと思います。これからもこの経験を周囲の人や、これから海外へ挑戦する人たちに伝え、埼玉と世界をつなぐ小さな架け橋であり続けたいと思います。

